



玉堂美術館と 吉川英治記念館を訪ねて

平成27年9月15日午前8時、35名の参加者を乗せたバスは、金沢文庫を出発し2時間足らずで、青梅市の「吉川英治記念館」に到着しました。吉川英治は、『宮本武蔵』などの著者として知られる横浜市出身の国民的作家です。昭和の初めに金沢を避暑で訪れ気に入り、称名寺近くに別荘を求めようとしたことで知られています。この記念館は、吉川英治が戦前戦後の約10年間を過ごした家で、母屋や書斎は当時のまま保存され、手入れの行き届いた庭園も素晴らしく、この日は、約2万点の所蔵品の中から『新・平家物語』を中心とした資料が展示されていました。続いて、「いもうとや」で、”おぼろ豆腐膳”の昼食をとったあと、『玉堂美術館』を訪れました。富岡の旧川合玉堂別邸二松庵の焼失は、いまだに喪失感やむなしさが消えませんが、川合玉堂が晩年を過ごした地を訪れ、初秋の溪谷の美しい緑と爽やかな川の流りに癒され、美術館では孫の小澤館長に案内されて、作品に漂う気品と穏やかな空気を心地良く感じました。最後に寄った休憩所「澤乃井園」の川



向にある寒山寺には、鐘楼に川合玉堂門下生が描いた格天井がありました。金沢ゆかりの方々の文芸、美術に触れ、澄みきった秋の空と美しい溪谷、おいしい料理に皆さまには満足いただけたことでしょう。
(橋本藤子)



NPO法人
横浜金沢文化協会
ホームページ
<http://www.yk-bunka.com>
メールアドレス
ykbunka@gmail.com
編集人 野中 建吾
☎ 781-5044
発行人 橘川 和夫
印刷 幸栄印刷(株)
☎ 716-3366

おめでとうございます 新「金沢区総合庁舎」竣工



平成28年2月22日から、区役所と消防署から成る7階建ての”和の趣”が感じられ、”区民との協働の要”としての新しい「金沢区総合庁舎」が、業務を開始した。

平生は、なかなかゆつくりとお話を伺うことのできない当協会顧問の方々と、役員・理事が出席した「新年会」が、本年は1月18日(月)夕刻から、称名寺門前の「ふみくら茶屋」で行われた。今回は、顧問の高井祿郎氏、片岡順一氏、佐野和史氏のお三方が参加され、総勢24名で賑やかに新春を寿いだ。話題が、金沢八景駅周辺再開発に及んだ時、瀬戸神社宮司の佐野氏から、現在のシーサイドラインの駅左側のビルの壁面についての話があり、あの壁面の波紋の模様は版画家・画家・彫刻家・陶芸家・芥川賞作家・エッセイスト・映画監督と多岐にわたる分野で足跡を残し、1998年に亡くなられた池田満寿夫氏が、学生時代にデザインしたものだということで、一同が驚くという場面もあり、その後も楽しい語りが続いた。
(深津米男)



NPO法人横浜金沢文化協会
平成28年度新年会

青少年健全育成事業 海苔づくり教室

晴天に恵まれた2月27日(土)、野島公園内の野島青少年研修センターと前方の広場で、恒例の「海苔づくり教室」が行われた。参加者は、小学生60名・保護者42名と過去最多であった。この行事は、青少年の健全育成事業として金沢区役所から委託され、横浜金沢文化協会が中心となり結成された「海苔づくり実行委員会」が実施しているものである。実行委員会スタッフら18名の指導の下、①海苔切り(細断)・②海苔付け(簾貼り)・③海苔干し(天日干し)の行程を行なった。「海苔切りは楽しかったが、海苔を簾に広げるのが難しかった」等の感想が聞かれた。参加者は、海苔が乾燥するまでの午前中は、「海苔の生態」「海苔づくりの歴史」等をビデオ等による解説を受け、昼食時には若布汁をサービスされ、午後からは、横濱金澤シティガイド協会メンバーの案内により野島公園内の史跡などを巡り、展望台まで散策した。その後、参加者は乾燥する海苔が発するパチパチという音を耳にしつつ、手作りの海苔を収穫し、満足気に足取りも軽く家路についた。



野中建吾



平成27年9月17日、25日、10月1日の3日間、金沢地区センターで、裏千家茶道講習を行いました。一日目は、床の間に千利休像のお軸を掛けて、その前で痺れない座り方、美しい立ち方の練習をしてからお茶の成り立ちについて説明。8世紀に僧侶の榮西が中国へ禅の修業に行きお茶の木の種を持ち帰り、京都の高山寺に種を撒いたのが今の宇治、静岡、八女茶の始まりであること。「利休居士切腹」についての話と、和敬清寂の和を持って相手を尊び清い心で静かに行ずるという意味である「日本の心」「お茶の心」の話、それから薄茶の頂き方も致しました。

二日目は、「掛軸」の真行草の表具の説明、お道具の真行草、拝見の仕方、お花と花入れにも真行草があり真の花には真の花入れです。

三日目は、濃茶の戴き方、七種のお菓子の話をしました。濃茶を飲み終わってお茶碗の拭き方、飲み直し方の練習もしました。最後に、茶入、茶杓仕覆の拝見をしました。熱心な受講生20余名の参加を頂きました。

(門間 宗映)

初心者に対する 裏千家茶道教室



金沢桐韻会 30周年記念演奏会

昭和59年に結成された琴の合奏グループで、月に3回、仲間と合奏練習をしています。皆お琴が大好きで、少しぐらい具合が悪くても、落ち込んでいても、仲間と一緒に音に包まれると、すぐに心身ともに軽くなります。平成27年10月10日(土)、30周年を記念して、金沢公会堂で演奏会を開催しました。幕開けに「六段の調」を20名の大合奏で弾きました。この曲は古曲の基礎の基礎で、



初期に習う曲なのですが、細かい技巧を忘れていたり、勘違いしていたり、冷汗をかきつつ一生懸命に練習してから舞台上に臨みました。「大迫力でした！」と嬉しい感想を頂きました。終曲は先輩たちの「春の海」で、大拍手のうちに、演奏会は終了しました。これで一つの区切りをつけ、また新たに出発です。年齢を重ねながらも、「休まずに続けようね」「一歩でも前に進もうね」と励まし合い、年1回の演奏会、「金沢区音楽のつどい」への参加、和楽器体験授業のお手伝い等活動していきます。

(佐野史瑞子)



第27回 金沢区民文化祭

第27回金沢区民文化祭は、平成27年10月9日から同12月20日までの間、金沢区民文化祭実行委員会主催、金沢区役所共催、NPO法人横浜金沢文化協会後援により、次の通り10行事が実施されました。

☆区民の作品展☆ 金沢区民文化祭実行委員会 10月9日(金)～13日(火) 金沢地区センター体育館

区民及び区関係の人達から公募した絵画・写真・書道・文芸(俳句・短歌)・手工芸を一堂に展示した親しくそして楽しい展示会です。会場入口内には、金沢華道会により飾られた大きく美しい「迎え花」が入場者を暖かく迎えました。今回は、出展者328名、入場者約1100名を数えました。同時に、区内の小・中学生の作品を展示しましたが出展した生徒の家族・友人らが来場して、会場には活気がみなぎり好評でした。(野中建吾)



区民及び区関係の人達から公募した絵画・写真・書道・文芸(俳句・短歌)・手工芸を一堂に展示した親しくそして楽しい展示会です。会場入口内には、金沢華道会により飾られた大きく美しい「迎え花」が入場者を暖かく迎えました。今回は、出展者328名、入場者約1100名を数えました。同時に、区内の小・中学生の作品を展示しましたが出展した生徒の家族・友人らが来場して、会場には活気がみなぎり好評でした。(野中建吾)

☆華道展☆ 金沢華道会 10月10日(土)～11日(日) 金沢地区センター2階大会議室

華道展では、毎年皆様から「素晴らしい」「癒されました」等のお言葉を頂きますが、昨年は少し違いました。「春にも華道展を是非!」「感動しました。私の生家(高知県)の庭の孟宗竹で花入れを何本か造って送るから使ってください!」と届け先をメモ、いずれも男性。「こんな素敵なお華道展の案内表示を印刷した活字が、似合わないですよ。来年は私が書いてあげましょう」。会員一同、感謝感激!改めて「いけ花を後世に・・・」の思いを新たにした華道展でした。(堀蕙柯)



☆茶会☆ 金沢茶道会 10月11日(日) 金沢地区センター2階和室・ロビー

爽やかな秋晴れの日に、金沢地区センター2階の和室とロビーでお茶会を催しました。今回は両席とも裏千家の席になりました。和室席は裏千家十五代鶴雲齋大宗匠筆「万里無片雲」の軸を掛けて、お茶碗は淡々斎箱の赤楽でのおもてなしです。ロビー席は「なごみ立礼棚」を使い、和室畳敷きの感じで長板に風炉、釜を据えて古志野の水指を置き掛物は紅葉画賛で、両席とも秋がいっぱいでした。区役所の方々もお席にお入り頂き、お客様は155名でした。(門間宗映)



☆金沢区音楽のつどい☆ 金沢区音楽のつどい実行委員会 10月18日(日) 金沢公会堂

35年目を迎えた「金沢区音楽のつどい」は、練習拠点を金沢区に置いていた音楽団体が、音楽文化の向上とお互いの親睦を図ることを目的として、日頃の練習成果を発表するステージです。構成は32団体、参加は28団体でした。また35周年を記念して、指揮杉山範雄先生、ピアノ田中久美先生、133名の有志で、フォーレの「レクイエム」を演奏し、爽やかな気持ちで終えることが出来ました。平成28年度は、10月16日(日)磯子公会堂で開催予定です。(宮崎裕子)



☆吟と舞の祭典☆ 金沢区吟剣詩舞道連盟 10月24日(土) 金沢公会堂

吟剣詩舞には絶対必要な定番の「金沢八景詩」今回は区内在住者だった宇野先生の漢詩を各流派が吟詠しました。次に恒例の「歌謡吟詠コンクール」は、出場者は年毎に実力仲で審査員泣かせの盛り上がりでした。また、目玉の特別構成番組は「日本の美」で、日本の美しい風景を読んだ句「近江八景」から「松島」「富士山」等を吟剣詩舞で飾りました。更に、青少年の吟詠もあり、将来の日本を担う子供達の吟詠には期待出来ます。今年も会場の皆様から善意の多額の募金が寄せられ、金沢区社会福祉協議会へ贈呈しました。(遠藤勝美)



☆金沢三曲演奏会☆ 金沢三曲会 11月3日(火・祝) 金沢公会堂

尺八奏者9名による演奏で幕を開け、古曲から現代曲、子供たちから熟年まで、年齢層、曲目ともにバラエティに富み、熱気に包まれた一日でした。特に、最年少5歳と小学生の舞台の、そのひたむきな姿に、会場の盛大な拍手はなりやみませんでした。最後は、尺八本曲を紋付袴姿で格調高く演奏し、盛会裏に終了しました。(佐野史瑞子)



☆金沢区小・中学校音楽祭☆ 金沢区小・中学校音楽祭実行委員会 11月29日(日) 金沢公会堂

幕開けは今回8回目の六浦小琴クラブ、次の高舟台小特別合唱クラブはTBSこども音楽コンクールで歌った曲やトーンチャイムの音色で、横浜中学・高等学校合唱クラブのお兄さん達は男声コーラスで客席を魅了した。ゲストは金沢少年少女合唱団、小1から大学生の20名が熱演。2部に入るや富岡東中に続き益利谷中の吹奏楽、どちらも女性の指揮者で弾けんばかり。最後に飾る横浜中学・高等学校吹奏楽部の演奏で会場は大満足の演奏でした。(森川淳子)



☆金沢区日本舞踊連盟公演☆ 金沢区日本舞踊連盟 12月6日(日) 金沢公会堂

日本舞踊連盟公演では、伝統的文化の継承を受けつぎ、松竹衣裳、大道具等はそれぞれの舞踊に合せ変り、日本舞踊本来の姿をお客様に見て頂き、「感動しました!」との嬉しい言葉を沢山頂戴しました。私達は、人材育成の披露の場でもあり、芸術を通し地域文化の交流を図り、世代を超え楽しんで頂けるように努力して参ります。また、「金沢文化芸術祭」にも所属し、自由参加による文化活動の一端を担っています。(花柳徳蓮)



☆金沢シンフォニカプロムナードコンサート☆ 横浜金沢交響楽団 12月13日(日) 金沢公会堂

今回はクラシック音楽のプログラムで「ベートーヴェン交響曲第1番」で古典派の音楽、「ドヴォルザーク交響曲第8番」でロマン派の音楽などを披露。一般的にクラシック音楽と言われていた19世紀ヨーロッパの代表的な曲を音楽の変遷(古典音楽からロマン派音楽へ)や作曲家のエピソードなど解説を折り込みながら演奏した。普段あまり聴き馴染みのない方々も曲の背景が分かり、熱心に聴いてくださった。今回も満席でした。(長谷川克己)



☆民謡のつどい☆ 金沢民謡協会 12月20日(日) 金沢公会堂

昨年2月に結成された金沢民謡協会。金沢区民文化祭に初参加させていただき、第1回「民謡のつどい」が無事に終了しました。民謡を愛する金沢区の13支部が集結し、北は北海道から南は九州まで、95曲の民謡を発表しました。オープニングは「花笠音頭」、フィナーレは「ダンチヨネ節」を出演者と会場全員で唄いました。個人の発表や、踊り、プロの奏者による津軽三味線の曲弾き、民謡歌手のコラボなど、充実した内容で盛り上がりました。(阿部きみえ)



金美・新春展

金沢区美術協会主催の「金美・新春展」が1月20日から26日まで、磯子区民文化センター杉田劇場ギャラリーで開催された。この美術展では、昨年11月に当協会が実施したバススケッチ旅行をテーマにした作品21点と、一般画題をテーマにした作品29点を展示した。バススケッチ旅行の行先は「伊豆の瞳」と言われている「一碧湖」で、参加者は44名であった。紅葉にはまだ早い時期だったが、湖をバックに一部黄葉した木々を入れて書いた人、遊歩道に垂れ下がった樹と湖を描いた人、また湖に張り出した棧橋を描いていた人達が、今回の展覧会に出品していた。一般画題の方は、日頃描き貯めていた人物、静物、風景画、抽象画が出品されて、バラエティーに富んだ美術展となっていた。会期中、荒天の日もあったが、約500名の方々が鑑賞に来られた。

(大滝照平)



第8回 金沢区美術展



「絵を見る楽しみ」「描く楽しみ」「発表する楽しみ」をテーマに金沢区民を対象にした公募展「第8回金沢区美術展」が11月21日から27日まで、

能見台地区センターにて、地域の作品展と同時開催された。今回の出展者は一般55名、会員88名の計143名と過去最高を記録した。ジャンル別では水彩88点、油彩32点、水墨19点、パステル、切り絵、彫刻4点の出品があった。今回から「ギャラリートーク」と言うことで、出品者との交流を図るため、出品者が自分の絵の前で、絵を描いた動機や、絵に対する思い入れなどを語ってもらい、それに対してギャラリートークに参加している人が質問したり、意見を述べる場を設けた。これへの参加者が54名おり、質疑応答も活発で色々参考になったと好評であった。来場者は約1500名で、これも過去最高で成功裏に終了した。

(大滝照平)



第14回

金沢吹奏楽団

KANASUIクリスマス・チャリティー・コンサート ～ありがとう金沢公会堂～

11月22日(日)、金沢公会堂において、文化協会の国際交流事業でもあるKANASUIクリスマス・チャリティー・コンサートの14回目を迎えました。区内の障害者の皆様に支援する目的で始めたコンサート、初回からのチャリティーの累計が1,292,193円となったことを、ここに報告

いたし、長期にわたる皆様の善意に心より感謝申し上げます。

さて、昭和46年のこけら落としにて演奏して以来、「かなすい」のホーム・ホールとして皆様との楽しい思い出が沢山詰まった金沢公会堂での最後のコンサート。そんな思いを込めた当日のロビーでは、懐かしい「金沢公会堂&かなすい」のミニ写真展を開催し、国際交流でお招きした海外の皆様にも金沢公会堂の歴史を見ていただきました。一足早いクリスマスでしたが、団員一同、和気藹々のコンサートを皆様と一緒に楽しみました。

次は、6月26日に、逗子「なぎさホール」で定期演奏会を予定しております。皆様のご来場を心よりお待ちしております。(らっば爺)



「金沢三曲会」では、平成8年から、和楽器体験授業のお手伝いに、楽器を持って区内の小中学校に出前しています。小学校6年生の音楽の授業が主ですが、5・6年生対象や、授業参観時に、また外国の学校との交流など様々です。お気に入りがあり2度3度と同じ楽器にまわってくる生徒や、先生の「はい、もう終わり!」の声も耳に入らず、授業が終わっても楽器に夢中になっている姿に、元気を沢山もらっています。「お筆は音色がとても綺麗」「尺八はなかなか音が出なくて頭がクラクラして窒息しそうになった」「三味線はバチを持って構えるのが大変だった」など、色々な感想を聞けるのも楽しみです。毎年15校前後に出前しています。

(佐野史瑞子)

金沢三曲会の 出前教室

「横浜金沢を詠う」

平成27年後期(第14回)

俳句・短歌表彰式



横浜金沢俳句・短歌ボスト実行委員会主催の「俳句短歌ボスト制度」第14回(平成27年度前期)表彰式が10月28日(水)、金沢区民活動センターで行われました。

次に被表彰作品を紹介します。

【俳句の部】

☆横浜金沢区長賞

(天位) 堀に背中押されて朝比奈路

(地位) 金沢区富岡西 三浦 正雄

(地位) 京急の窓いっぱいには大花火

(地位) 金沢区東朝比奈 森川 享

☆横浜金沢俳句・短歌ボスト実行委員長賞

(天位) 春の宵つづみこだます称名寺

(地位) 金沢区寺前 久光 邦晴

(地位) ヨットの帆乙軸の風ふところに

☆横浜金沢文化協会理事長賞

(天位) 平潟の汐風くぐる茅の輪かな

(地位) 金沢区富岡西 小幡 友子

(地位) 野島沖恐竜のごと雲の峰

☆横浜金沢観光協会賞

(天位) 風光る三角屋根の水族館

(地位) 金沢区金利谷西 蛸子 雷児

(地位) 晩夏の夜野島の空に散る火花

☆横浜金沢シテイガイド協会理事長賞

(天位) 黎明へ四海へひらく夏座敷

(地位) 栄区桂台中 山野 洋子

(地位) 白帆ゆく沖の藍より夏来る

☆横浜金沢シテイガイド協会理事長賞

(地位) 金沢区金利谷東 稲田 涼子



【短歌の部】

☆横浜金沢区長賞

薪能 うつすら間の庭園に

笛の音幽かシテの出を待つ

☆横浜金沢俳句・短歌ボスト実行委員長賞

富岡の香る若葉に囲まれて

凛と咲くのは 君という花

☆横浜金沢文化協会理事長賞

所沢市西所沢 山田 優芽

☆横浜金沢文化協会理事長賞

瀬戸神社 鎮守の森のはるか上

再開発のクレインそびえる

☆横浜金沢観光協会賞

朝比奈の山道急ぐ

児童らの挨拶の顔 汗に塗れて

☆横浜金沢シテイガイド協会理事長賞

「凶ならばお守り上げます」

わが町の奇特な鎮守 富岡八幡

☆横浜金沢シテイガイド協会理事長賞

柳澤みゆき (野中建吾)

文芸部活動報告

☆金沢区民俳句(吟行)大会結果☆

金沢俳句会では平成27年10月25日(日)、金沢動物園での吟行後、「ののほな館」に、27人の俳句愛好者を集めて、第16回「金沢区民俳句(吟行)大会」を開催しました。次に上位の作品を紹介します。

象の目に遠き山河や照紅葉

冷やかにわが句帖見ると手長猿

麒麟舎に首ひとつ出で秋の空

秋雲を引き寄せ麒麟草を食む

秋深く眠るコアラの丸みかな

紅葉と白き象牙と青き空

色鳥の鳴いて晴天ひろげをり

柿一葉宇宙の色を載せて落つ

秋澄めるヤギのつがい毛繕い

秋晴や「はまっこ」キリン誕生す

井出 佳子
大川 一馬
柴崎 幸治
小幡 友子
松本 隆男
太田 耕蔵
惣野 圭子
西村 康枝
大谷 祥二
鈴木 祥代

☆金沢区民短歌(秋季)大会結果☆

金沢区民歌人会では平成27年11月23日(月・祝)、八景コミュニティハウスに23人の短歌愛好者を集めて、金沢区民短歌大会(秋季)を開催しました。次に上位の作品を紹介します。

米寿とて誇ろうものは何もなし

せめて背筋を伸ばし歩かん

積み上げて一枚一枚読み返し

焚火の中に名刺を投げる

青空に映ゆるぎくろの赤き実を

下校の児等は皆見上げ行く

ばら咲いて咲いて黙って散るゆふべ

焦らない競はない一生も在る

テレビ観るもパソコン打つも居間の椅子

母が遺しし眼鏡を掛けて

たまさかに訪いくる子と歩む

南京黄櫨の燃ゆる山道

佐藤 良二
島田 達巳
本間 和子
高尾 文子
藤田 絹子
大江 良子
(野中建吾)



細菌検査室(長浜野口記念公園内)



検疫資料館(1号停留所)(検疫所敷地内)

長浜に残る明治の検疫遺産 「検疫資料館と細菌検査室」 を巡る会

野口英世細菌検査室保存会では、長浜の検疫所公開日(平成27年8月22日)に、同所敷地内の「検疫資料館」と同所に隣接する長浜野口記念公園内の「細菌検査室」を巡る会を開催した。明治28年、山と海に囲まれた金沢村大字柴に「長浜消毒所」が開設。防波堤と2本の棧橋を備え、上・下等船客を一定期間宿泊させる1・2号停留所、身体消毒の浴室、衣服消毒所、伝染病院、細菌検査室、火葬場など33棟が建設。翌年に「長浜検疫所」と改称された。明治32年、海港検疫法により、「横浜海港検疫所」となり、同時に発効した海港検疫医官・医官補の制度に基づいて、野口英世が医官補として着任した。着任直後に、野口は検疫に向いた船内で病気に苦しむ船員に出会い、異常を感じて採血し、細菌検査室での検査でペスト菌を発見。日本の検疫制度と実務が欧米に並んだことを世界に示した。大正12年、震災で壊滅的な打撃を受けるが翌年には殆どの施設が復旧。昭和60年、1号停留所、細菌検査室などを残して施設は撤去。平成5年、細菌検査室と周辺が横浜市に払い下げられ、補修工事を経て通年の一般公開となった。1号停留所は検疫資料館として明治以来の検疫資料・機材の展示場となり、検疫所内の教育施設としても利用され、毎年1回一般公開されている。長浜に残る「検疫資料館(1号停留所)」と「細菌検査室」は、日本に残る唯一の明治の検疫遺産である。(金間誠一)



第

34

回

南

国

忌

～朗読部の活動報告～

◎龍華寺〈開山忌法要〉朗読会

10月21日夕刻より、本堂での開山忌法要後、朗読タイムとなり、芥川龍之介の「くもの糸」、高僧の話「鼻」の2作品を、間に体験コーナーを入れて朗読しました。大勢の方々が集り朗読をお聴きになり、「初めて朗読を聴きましたが、とても感動しました」と感想を言われたり、一人のご年配の方は、「発声、滑舌の練習もあるので、これは良い!」と、直ぐに入会されました。

◎朗読教室「たちばな」発表会

10月25日午後2時から八景コミュニティハウス文化祭にて、今回は八景小学校音楽室で、朗読教室「たちばな」の生徒の第4回目の発表会を行いました。1年間学んできた詩、童話、文学作品の中から、それぞれ好きな作品が発表されました。その結果、「声も持ち味も違う色々な人がいて、聞いていて楽しかった」とか、「皆さんは、年々確実に上達していますね」などの感想を頂きました。(橘 有美)



文化祭 朗読発表会
2015.10.25 コミュニティハウス

金沢区に春を呼ぶ第34回「南国忌」が、2月21日(日)に、富岡東の「長昌寺」で開催された。講師は、司馬遼太郎記念館特別学芸員・(財)大倉精神文化研究所客員研究員の増田恒男氏。演題は『近代説話』から「梟の城」(第42回直木賞)へ、司馬遼太郎の軌跡を中心に。司馬遼太郎は今年没後20年で、週刊朝日MOOKから「没後20年 司馬遼太郎の言葉」が発刊されており、NHKスペシャルで2月13日(土)、14日(日)の二夜にわたって、「司馬遼太郎思索紀行」この国のかたち」が放映されるなど、誠にタイムリーな講演であった。増田氏は南国忌の会の実行委員の大河原英與氏の助言を得ながら、知られざる司馬遼太郎の裏話で、130名を超える参加者を魅了した。

(窪田 修)

「梅見のお茶会」 行事の雨天中止について

金沢茶道会主催の恒例行事の一つである金沢自然公園梅林で2月20日(土)開催予定でした「梅見のお茶会」は、雨天中止になりました。

翌21日(日)は穏やかに晴れて、横浜市立看護大学の茶道部担当の茶会は盛況裏に終了しました。

(門間宗映)



NPO法人 横浜金沢文化協会 会員を募集中です

当協会は、武蔵国金沢以来の伝統をふまえ、次世代を展望しつつボランティア精神をもって、地域文化振興の中核となる事業を行い、各種の文化活動を通じて、地域文化の総合的發展に寄与することを目的としています。

活動の種類

- 学術、文化、芸術の振興を図る活動
- 社会教育の推進を図る活動
- まちづくりの推進を図る活動
- 子どもの健全育成を図る活動、その他

事業

- 地域文化振興の中核となる事業
- 歴史、史跡、文化財等の調査・伝承・保全事業
- その他、当法人の目的達成に必要な事業

活動部門

- ◎総合文化部 ◎絵画部 ◎書道部 ◎写真部 ◎手工芸部 ◎文芸部 ◎歴史部 ◎楽器部
- ◎合唱部 ◎声楽部 ◎邦楽部 ◎吟剣詩舞部 ◎華道部 ◎茶道部 ◎郷土芸能部 ◎謡曲部
- ◎民謡民舞部 ◎陶芸部 ◎邦舞部 ◎洋舞部 ◎朗読部 ◎武道部 ◎児童文化部 ◎一般文化部

年会費

- 個人 2,000円
- 団体 7,500円(会員25人以下)
- 10,500円(会員26人~50人)
- 15,000円(会員51人以上)

横浜金沢文化協会員の個人または団体が行う行事で、当協会の共催または後援が必要な場合は、申請書の審査により、名義使用の許可と、資金援助を年1回限度で実施しています。

会員の募集

主として金沢区に居住・在勤・活動されている方で、当協会の目的に賛同し、活動またはご協力等を頂ける個人または団体の皆様。入会及び問合せは、右記「問合わせ先」まで、ご連絡願います。

問合わせ先

NPO法人横浜金沢文化協会
事務局長 深津 米男
電話 045-782-0705

☆☆金沢区に文化ホールを☆☆



た。広報に努めた。(野中建吾)

平成27年度パネル展への参加
横浜金沢文化協会は、金沢区民活動センター(ゆめかもん)主催の「パネル展」に、10月16日(金)から22日(木)までの1週間、参加した。同センター内展示コーナーの壁側に、当協会の活動スローガン等を墨書し、かつ恒例的行事・活動II海苔づくり教室・塩田による塩づくり・吟と舞の祭典・小・中学校音楽祭、華道展、茶会などIIの大型写真を貼付した大型広報紙を掲示した。併せて、当協会会報「しおさい(第40号)」を50部配架して(本展終了時には、数部しか残って

ホームページだより②

～メールマガジン発行と利用登録のお願い～

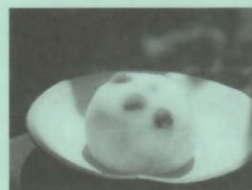
一般的にホームページ(HP)には、新しい情報が次々に掲載されますが、「何時、どのページに新しい情報が掲載されるか不明」という欠点があり、当協会のHPも同じです。この欠点を解消するために、当協会のHPに新しい情報を掲載すると、それを皆様にお知らせする「メールマガジン(略称：メルマガ)」のサービスを始めます。そこで皆様をお願いすることは、サービス利用の登録です。当会のメールアドレス

ykbunnka@gmail.com

に「メルマガ配信希望」と書いて、送信してください。それで「メルマガ」の配信が始まります。受信した「メルマガ」を開くと、本文には、新しい情報の項目と掲載のHPアドレスが箇条書きになっています。見たい情報があれば、そのHPアドレスをクリックして下さい。そのページが表示されます。(金間誠一)

賛助会員紹介

昭和24年に金沢区富岡に産声を上げて今年で66周年。皆様の暖かい応援を頂き、誠に有難く厚く感謝申し上げます。平成24年開催の「ガチあま」(ガチであまいものナンバーワン決定戦)に豆大福で挑戦、82店舗中第一位金賞を獲得いたしました。これも地域の皆様の熱き応援、ご協力の賜物と厚くお礼を申し上げます。昨年2月に能見台駅そばに能見台支店を開業しました。京急富岡駅前本店同様ご愛顧のほどよろしくお願ひ申し上げます。当店のキャッチフレーズは、
“おいしい和菓子のお店”
“おいしい和菓子作りを通じて地域の皆様に愛されることを目指すとともに、食文化の向上に少しでもお役にたてればと精進して参ります。”
感謝



御菓子司横浜紅谷 鈴木 道弘

文化協会行事予定(日程順)

Table of cultural association activities with columns for date, location, and phone number.

顧問名簿 (五十音順)

Table of advisors' names in alphabetical order.

個人会員紹介



邦楽部 岩下 寛治

平成年のユニーの建替えて、「岩下書店」は43年間の営業を終了致しました。地元の皆様をはじめ、多くの方々にご厚意頂き誠にありがとうございました。以前は文化協会の賛助会員として参加して参りましたが、今後は個人会員として参加させて頂きます。活動部門は邦楽部です。端唄、俗曲を師匠について習い「芝で生まれて」「からかさ」など、よく唄っています。地元の歴史にも興味がありますので、地元の歴史グループに入会しようと思っています。皆様のご指導、よろしくお願致します。



総合文化部 森上 久夫

昨年、知人に誘われて「海苔づくり」に参加しました。上手く出来た時の子供達の笑顔や得意顔を見て私自身にとっても楽しい一日でした。夏には「塩の道を歩く」「塩田による塩づくり」に参加しました。この行事でも子供達と楽しく触れ合うことが出来ました。体験することは、理解ができ記憶に残るものだと思います。和気あいあいとした雰囲気の実行委員会も楽しみます。金沢の歴史や文化の継承事業に、これからも参加したく思います。



総合文化部 田宮 誠二

昭和20年3月の東京大空襲で生家は消滅し、曾祖父の別荘があった寺前に、戦後70年居住しております。そして平成6年から当地で眼科医院を続けております。横浜金沢文化協会との係わりは、家内が茶道会から総務としてお手伝いしている関係で入会しておりますが、私自身の活動はなくもっぱら家内への内助に終わっています。金沢市の自然保護と文化の維持の為に微力ながらお手伝いできればと思っています。



写真部 山本 明

富岡西の新興住宅地に移り住んで40年が経ちました。当時は家もまばらで、最寄りの駅からのバスやスーパーマーケットもなく、不便をかこっていました。今では道路網も整備され生活しやすくなりました。気候が温暖で自然公園にも近く、海にも恵まれた終の棲家として、日本でいちばん住みよい処だと、感謝の毎日を送っています。来る4月6日から11日まで、石川町のLプラザで、モノクロ写真と水墨画の二人展を開きます。ご高覧下されば幸いに存じます。

編集後記

2月に、新・金沢区総合庁舎が竣工し、業務を開始しました。今後とも、地域振興課・区民活動センター等との連携を一層密にして、実効の上がる活動を推進していきたいと思えます。(K.N)

編集委員

- 阿部きみえ・榎本あけみ・遠藤 勝美・橋川 和夫・後藤 政也・佐野史瑞子・鈴木 稔・野中 建吾・宮崎 裕子・森川 淳子 (五十音順)